

2010年産米作況指数102の豊作予測

～西南暖地における早期栽培等の作柄は、やや不良」の見込み

農水省の統計データ新着情報によると、西南暖地における早期栽培の作柄は、4月の低温・日照不足による分けつ抑制や6月中旬以降の日照不足等の影響から、高知県及び鹿児島県において、「やや不良」が見込まれると発表。沖縄県の第一期稲の作柄は、4月以降の日照不足等の影響から、「やや不良」が見込まれる。<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>

ところが8月5日、民間のコメ情報調査会社「米穀データバンク」(東京都千代田区)は、10年産米の作況指数(平年=100)を102の豊作とする予測を発表した。農水省は10年産米の収穫量を813万トンと見込んでいるが、同社によると主食用米の収穫量は848万トンと見込まれ、計画比を35万トン上回り、09年産米の売れ残り分を加えると70万～75万トン程度の供給過剰になるのではと試算している。農林水産省の需要予測805万トンを大幅に上回る。コメ余りを背景に米価の下落傾向が強まりそうだ。コメの生育は5月までは低温で遅れていたが、6月以降の好天で回復。特に北海道や東北、関東で高い収穫量が見込まれる一方、西日本は梅雨期の大雨などの影響で平年を下回ると予想している。

真夏日続きで高温障害の心配と、品種格差、個人格差が大きい

しかし、米どころの東北、北海道の産地からは異論も出ている。今まで経験したことの無い真夏日続き、異常高温続きによる高温障害、品種によっては出穂期に日中35度以上の真夏日で登熟不足、高温障害が心配される。その他茎数不足、穂が小さい、いもち病の大発生や、早稲、中生、晩生品種格差、生産者の管理、個人差が大きく出ているという。肥培・防除を例年通りしっかり管理した生産者と手抜きした生産者では、今年は大きな差が出ると思われる。収穫時期は例年よりかなり早まる見込みで1週間から10日は早く、北海道で9月上旬、青森でも中旬には刈り取りが始まるところが出て来そうだ。青森県の津軽ロマン、アキタコマチの生産者や、北海道の滝川、上川地区の生産者の中には大豊作の生産者も出てくるのではと予想している。

09年産米の相対取引価格は今年6月時点で60キロ当たり14,000円程度だが、業界では過剰在庫や豊作で1,000～2,000円程度の値下がりを見込んでいる。既に早場米の相場は1,000～1,500円ダウンで商いが始まっている。今年導入された戸別所得補償制度では、コメの値下がりに応じて農家への給付額を上乘せする「変動部分」に予算が計上されているが、所得補償分が想定を超えた米価下落に拍車を架けているようにも見える。昨今の異常気象による穀物価格の高騰、特に早粳による小麦価格の高騰や生産国の輸出規制の影響を考えると、コメ粉、加工用米、飼料用米等国産米の消費拡大、豊作貧乏に為らぬ事を望みたい。

10年産米の作況予測							
北海道	106	東京	102	滋賀	102	香川	98
青森	105	神奈川	103	京都	102	愛媛	98
岩手	105	新潟	102	大阪	101	高知	99
宮城	106	富山	103	兵庫	101	福岡	97
秋田	100	石川	103	奈良	101	佐賀	96
山形	101	福井	102	和歌山	101	長崎	96
福島	105	山梨	102	鳥取	100	熊本	98
茨城	105	長野	103	島根	101	大分	97
栃木	104	岐阜	103	岡山	100	宮崎	100
群馬	103	静岡	102	広島	100	鹿児島	97
埼玉	102	愛知	102	山口	98	沖縄	96
千葉	105	三重	102	徳島	100	全国	102

(米穀データバンク調べ)

日本オーガニック株式会社創業80周年

日本オーガニック(株)(中部菱肥会会員;静岡市)創業80周年記念行事が、8月6日(金)静岡市葵タワーグランディエールブクトーカイにて開催された。会場内の大型スクリーンには創業時から現在までの沿革が写し出され、記念講演では同社水谷久美子社長の主催者挨拶に続き、取引先を代表して宝巻産業(株)影島社長、当社上杉社長が祝辞を述べた。その後、静岡県立大学/木苗学長が「地場産品を通して食と健康を考える」をテーマに、また東京中小企業投資育成(株)業務第四部/田中部長「火中のクリを拾え!ガンバレ中小企業」をテーマに記念講演があった。木苗学長は薬学研究の観点から、静岡を代表するお茶、みかん、ワサビの健康への効用や、大学・県内各研究センターで研究の進む白葉茶についての説明があった。白葉茶は地域結集型開発プログラム「静岡発 世界を結ぶ新世代茶飲料と素材の開発」の一環である。



また祝賀会では、水谷社長よりユーモアに溢れた社員紹介と、同社が平成15年より販売先向けに行っている「元気がでる勉強会」(通算29回)の皆勤表彰が盛大に行われた。同社の10年ビジョンは「土から口までの一貫ビジネス」である。平成18年に『農業法人(株)うまヘルシー』、平成21年には同社直営のできたておむすびの店、産直旨味処「縁むすび」がオープンした。肥料製造販売のみならず、食への挑戦を始めている。生産者さんに同社の厳選肥料を使用して作ってもらった、作り手の見える農産物を皆様に直接届けたい、という想いから生まれた。うまヘルシーのグッデイバックのトマトは大人気である。 <http://www.nihon-organic.co.jp/> (名古屋支店 岡本)



青果情報 : 概況

7月の梅雨明けごろから局地的なゲリラ豪雨と早魃が産地を痛めつけ、出荷状況は6月と一変した。特に葉物産地の信州地区は雹害も頻発し、供給に支障が出た。今後も猛暑は続く模様で当面出荷には厳しい状況が続くと見られる。

生鮮野菜の輸入状況 ~ 5月 ~ 昨年11月から7ヶ月連続で前年対比増となっている。大きく増えたのが前月に続き結球レタスで、前年同期対比2,127%の270トン、枝豆が同316%の343トンとなっている。この6ヶ月間の伸びは日本の天候に起因するところであり6月は国内産地も天候回復と共に回復に向かった事から輸入量は減少していくものと思われる。

雹害/豪雨 夏季産地を襲った雹や豪雨は産地状況を一変させた。6月に入りやっと天候も安定し出荷も順調になったが、7月中旬の梅雨明けあたりから各地でゲリラ豪雨や雹害が報告されるようになった。さらに豪雨・雹害の後に猛暑となり気温が上昇したことで産地状況の悪化に拍車を掛けてしまった。被害は信州で多く報告され、孺恋のキャベツ・川上のレタスは狙い撃ちされたかの状況で、市場は今もパニック状態のまま。気になる今後だが、これからは台風シーズン、既に台風4号が本土に迫っており出荷リスクは更に悪化していくと思われ、暫くは気が抜けない状況が続くようだ。

(青果部 加藤)

5月の主要生鮮品の輸入実績

品目	数量(トン)	前年比(%)
セルリー	430	287%
トマト	109	92%
タマネギ	19,526	161%
白ネギ等	3,465	143%
さといも	462	269%
生鮮輸入量計	63,868	137%

前号で熱帯夜対策について触れましたが、ここ最近の猛暑により東京は夜中の気温も30度近くで、エアコン無しでは朝まで眠れなくなってしまいました。東京中のエアコンを一斉に一晩停止したら、室外機から出る温風がなくなって涼しくなるのか?! ちょっと実験してみたいです。

編集局長: 小田原次洋 アシスタント: 助川尚子

電話: 03-5802-2011/E-mail: macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>